



撮影：新田憲太郎



上/英語の本を読んで、ただ意味を理解するのではなく、それをどう解釈し、何を学び、どう表現するかまでがレッスン。左/チェロのレッスンも同教室で行われている。書棚の本の前にあるのは子供用と大人用のチェロ。鎌倉のノスタルジックな雰囲気すら感じられる。



子女教育に “リベラルアーツ” という選択を

世界を視野に入れた教育に新しい息吹。リベラルアーツとは何か。北鎌倉で学ぶ新時代の教育。

理系・文系に括られない、また教養教育とも異なる新しい「リベラルアーツ教育」が注目されている。

アメリカでは、4年間広く教養教育を学び続けるリベラルアーツ・カレッジと分類される大学があり、日本でも国際基督教大学をはじめ、国際教養大学、早稲田大学国際教養学部などがリベラルアーツ教育を行っている。

「リベラルアーツ」とは、奴隷制が敷かれていた古代ギリシア・ローマにおいて「人を自由にする学問」として生まれ、奴隷でない自由人として生きていくために必要な素養として、文法学・弁証学・修辞学の3つに、算術・幾何・天文・音楽の4つを加えた、7つの自由科目が総合連動しながら定着していったものである。より体系化・学問化された「教養」ともいえるだろう。高度にグローバル化が進んだ現代社会のように、文・理を超えた複雑な思考力や知識、能力が求められる時代において、このような学問のあり方こそ見直されるべきなのかもしれない。

そんなリベラルアーツ教育を提供する個人塾が1月から北鎌倉で開講している。

「ライシウム (Lyceum)」。古代アテナの哲学者アリストテレスが学徒たちを教えていた学びの園・リュケイオンにその名を由来するこの個人塾。

味を見つけて深めていってほしい。それを支援するのが、ライシアムの目的です。」

昨今、日本の大学でも、リベラルアーツプログラムをはじめ副専攻やダブルメジャー制度を取り入れる学部が誕生している。このような意味で、分野をクロスした総合的知識・能力が注目されるようになってきている。それにもないリベラルアーツのあり方が変わってきているのだろうか。

ライシウムでは、これからさらに長期の構想として、芸術・ビジネスなどの分野におけるプロフェッショナルもゲスト講師として招いていきたいと考えて

哲学、音楽、文学、演劇を軸とし

て、これらに関連する分野なども含め、西欧教育の基礎ともなるリベラルアーツを身に付けていくレッスンを提供している。ただ教養的な学問を身に付けるだけではなく、自分を引きつけてかき立てられた興味のある分野についてより深く学ぶ支援を行う。

主宰者であり講師であるクリストファー・ギブソン氏は、ライシウム開講に至った契機をこう語る。「私は、日本のインターナショナルスクールでリベラルアーツを学びました。ですが、自分の関心がある分野をもっと特化して学べる環境がほしかったという思いから、こうした教育を今度は子供たちに提供しようと思ったのです。」

ギブソン氏は、インターナショナルスクールでリベラルアーツとしての国際バカロレア教育を受け、卒業後、名門イェール大学に入学。哲学、政治学をダブルメジャーし、学部生として、同音楽院でチェロを学んだ。そして現在、自身の塾を開きながら、チェリストとしても活動を行っている。

「私が大切にしているのは、生徒一人ひとりが『何をしたか』。ここでは、文法を含む英語の基本スキルに特化した指導はしていません。哲学や文学、演劇などのリベラルアーツを通して、批判的思考、分析力、表現力を身に着けながら、自分の成すべきことや興

いる。また鎌倉という土地の歴史的遺産を辿って、学問とつなげていきたいとも考えているそう。

開講以前から、学習塾等で名門校を目指す子女へのレッスンを行ってきたギブソン氏であるが既にイェール大学、ダートマスカレッジ、カールトンカレッジ、ジョージア工科大、マギル大学などのアメリカ・カナダの名門、国内では早稲田大学、上智大学に合格する優秀な生徒を育てるなど、確かな実績を重ねている。理想だけではなく、結果に裏付けられた確かなリベラルアーツ教育。子女教育を考える一助としてみては。



Christopher S. Gibson

共に文学や哲学を大学で教え、詩人でもあるアメリカ人の父と日本人の母のもとに生まれ、4歳からチェロをはじめ。横浜インターナショナルスクール卒業後、2005年に米・イェール大学に進学。哲学・政治学を専攻する傍ら、チェロの腕が認められ、オーディションに合格。その後チェロをOle Akahoshi氏に師事し、Wendy Sharp氏らに室内楽を学ぶ。同大学卒業後、哲学、文学、芸術を通して英語を教えながらチェリストとして東京・鎌倉を中心に活躍中。2012年、国際演奏家協会新人オーディションにて審査員の川島成道氏より「曲の世界に入り込むことのできる演奏」との賛辞を得る。

Information

Lyceum ライシウム

神奈川県鎌倉市山ノ内
lyceum.jp@gmail.com